

海外安全対策情報第2四半期（2018年4月～6月）

1. 社会・治安情勢

現在、政治的な要因による騒じょう、暴動などは発生していない。しかしながら、2018年実施予定の総選挙に向けて各政治勢力の活動が活発化しつつあり、今後の動向を注視していく必要がある。不測の事態を避けるため、選挙演説等集会が行われている場所にはなるべく近づかないようにすることが望ましい。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

フィジー警察によると、2018年第2四半期（4月～6月）の犯罪認知件数は4,489件であった。2017年同時期と比べ、ほぼ同程度であった。

犯罪傾向については、西部地区及び南部地区において窃盗、侵入強盗、性的暴行及び薬物に関する犯罪が多いため、引き続き十分な注意が必要である。フィジー警察は巡回増加や取締強化が実施されてはいるが、犯罪の抑制には至っていないため、引き続き適切な安全対策を講じるとともに、警戒心を保持して行動する必要がある。

窃盗については、邦人被害者も多く、富裕層（外国人旅行者を含む。）及び人混みを狙った犯行が多いため、カメラや携帯電話等の貴重品の取扱いに際しては、人目に触れないように心がけ、特に、マーケット、バスターミナル、イベント会場周辺等混み合う場所では十分注意する必要がある。

侵入強盗については、飲食店、小規模売店等で多いが、邦人住居への被害も少なくない。住居（ホテルを含む。）は、安全対策の施された物件を選択するほか、周囲の状況、警備員の配置、防犯設備の稼働状況等の確認を怠らないように十分注意する必要がある。

暴行については、飲酒に起因として夜間ナイトクラブ等において発生している傾向がある。夜間（早朝まで）飲酒した若者グループが、衝動的に犯行に及ぶ場合があるため、夜間における単独での出歩きは厳に慎む必要がある。

その他、クレジットカードやデビットカードのスキミング被害は件数は少ないものの引き続き報告されている。ホテル、商店及び銀行のATMでカードを使用した数日後に不正決済されるケースがあるため、各種支払いの際は極力カードを使用せず現金のみを利用することが望ましい。

3. テロ・爆弾事件発生状況

該当する事件は発生しなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

該当する事件は発生しなかった。